

執筆者紹介（掲載順）

玉井金五	大阪市立大学大学院経済学研究科長・経済学部長	村岡健次	大手前大学人文科学部教授
菊池光造	大阪商業大学経済学部教授・ アミューズメント産業研究所長	小田忠	大阪商業大学企画・学事部門学術研究事務室長
糸野博行	大阪商業大学総合経営学部助教授	鄭明子	大阪商業大学大学院地域政策学研究科 地域経済政策専攻博士後期課程
佐々木保幸	大阪商業大学総合経営学部助教授	斐龍	大阪経済法科大学講師

編集委員（50音順）

（○は論文審査委員）

○加賀田哲也	大阪商業大学総合経営学部助教授	○中野安	大阪商業大学総合経営学部教授・ 商業史博物館長
○片山隆男	大阪商業大学副学長・経済学部長	○成田孝三	大阪商業大学大学院地域政策学研究科長
瀧澤秀樹	大阪商業大学経済学部教授・ 比較地域研究所長	○前田啓一	大阪商業大学経済学部教授
常岡裕之	大阪商業大学事務局長	○矢野恵二	大阪商業大学経済学部教授・図書館長

◇◇編集後記◇◇

水の都の空も低く、三十万の薨の上に聳ゆる煙突二千六百八十本、左して大きからぬ其孔口から、十一億九千斤の石炭が煙となつて消えて行く。煙の都の名あるもむべなるかな。

何といつても大阪は天下の工業中心地、（中略）富の都である。

遮莫、富の半面には又貧がある。商工業の殷盛な土地柄だけに、貧富の懸隔も従つて甚しく、生活戦の敗残者の数も亦夥しい。

これは、大正6年（1917）『大阪毎日新聞』に連載、翌年出版された大毎記者村島歸之の大阪を中心とするスラム地区のルポルタージュ『ドン底生活』の冒頭の一節である。大正期、大阪のスラムは急速に膨張し、村島は「社会は、救貧、防貧に就いて意を繞らすべき本務がある」と述べている。

大阪市では、大正7年から昭和4年（1929）ごろにかけて、公設市場・市立簡易食堂・市営住宅・市営共同宿泊所・市営浴場・児童相談所・託児所・職業紹介所・市民館・市営質舗などの社会事業が全国にさきかけて展開されたが、その背景に米騒動の影響と大正デモクラシーの思潮があったことはいうまでもない。この間の事情については、対談「社会政策研究と地域」でも言及されている杉原薫・玉井金五編『大正・大阪・スラム—もうひとつの日本近代史—』増補版（新評論・1996）を参照されたい。ちなみに、村島の早稲田大学時代の専攻は、社会政策であった。

本号には、上記対談の他、論文2編、パレット・史料紹介・研究ノート・書評各1編を収めました。ご味読下さい。

（丸尾 佳二）

2003年8月25日 発行

地域と社会 第6号

編集・発行

大阪商業大学比較地域研究所

〒577-8505

東大阪市御厨栄町四丁目1-10

TEL(06)6785-6139

印刷

株式会社 RPSセンター